

日本セラミックス協会関東支部若手研究発表交流会派遣を終えて（2025年）

大阪公立大学工学研究科無機化学研究グループ博士前期課程2年

今井奎太郎

この度、日本セラミックス協会関西支部のご支援により、2025年11月29日に日本大学駿河台キャンパスで開催された「第13回日本セラミックス協会関東支部若手研究発表交流会」に参加し、ポスター発表を行いました。本交流会は、参加者が互いの研究内容やキャリア観を深く理解することを目的として企画されており、産官学で活躍する博士号取得者によるキャリア講演、ポスター発表、交流会という構成で実施されました。

講演では、民間企業や国立研究所で研究に従事されている方々より、研究のやりがいや職場の雰囲気について具体的なお話を伺いました。博士後期課程進学後のキャリアについて明確なイメージを持っていなかった私にとって、自身の将来像を見つめ直す大変良い機会となりました。

ポスター発表では、「アモルファス MoS₃ 正極活物質の構造と充放電機構」というタイトルで研究内容を紹介しました。アモルファス材料の構造評価にはX線回折のみならず、多様な手法を組み合わせた解析が必要となります。来場者の方々からは、その難しさに共感いただきとともに、追加の解析手法に関する具体的な提案を多数いただきました。これらのご意見を踏まえ、今後の研究をさらにブラッシュアップしていくたいと考えています。また、他の参加者のポスターでは、光触媒や焼結メカニズムなど専門外の研究も拝見し、自身の研究に応用できる視点や新たなアイデアを得ることができました。

交流会では、研究に従事する先輩方から、研究生活の実際や職場の雰囲気、さらには私生活に至るまで幅広いお話を伺うことができ、大変有意義な時間となりました。

本交流会への参加を通じて、ショートプレゼンテーションやポスター発表を通じて、自身の研究を発信したり、多くの研究者と対話する貴重な経験を得ました。特に、産官学それぞれ異なるバックグラウンドを持つ参加者との交流は、自身の研究活動およびキャリア形成を考えるうえで大きな刺激となりました。